

しおさい



真っ白な花が満開のそば畑

CONTENTS

- 特集記事 シリーズ⑬ ふるさと見聞録：尻労^{しつかり}を訪ねて2
- 明日へのかけはし：東通村郷土芸能保存連合会4
- ファイト!わんぱく：東通小学校野球部4
- クローズアップ こんにちは元気さん：山崎^{やまざき} 孝悦^{こうえつ}さん5
- 地元の特派員レポート：川口^{かわぐち}くれあさん／宮川^{みやがわ}祐希美^{ゆきみ}さん／相内^{あいない} 正幸^{まさゆき}さん6
- 達人がつくる簡単料理!：東通村野牛産「大型外海地まきホタテ」のオイル煮6
東通牛リブロースのステーキ ポムフリット7
- 発電所インフォメーション8

vol.14
平成27年度発行

東北電力(株)東通原子力発電所

22の神様を祀る穏やかな人々!

しっ かり

尻労を訪ねて

漁業が盛んな地域。地区民が連携して海を育み、伝統を継承!

アイヌ語で「山の手前」「行き止まり」という意味の「尻労」は、尻屋崎の南、桑畑山の太平洋側の海岸段丘面にできた集落です。



コダノ浜から見た尻労集落

村史によると、江戸時代に作られた「正保国絵図」(正保4年)に記されているのが最も古く、集落は元々、猿ヶ森寄りの低地・千原平にありましたが、二百数十年前、津波に襲われ、現在の大岩付近に移転したと伝えられています。

尻労と尻屋の間の断崖は「あおべ」と呼ばれ、とても美しく、猿ヶ森へ続く8キロの白い砂浜は、鳴き砂になっています。

基幹産業は漁業。定置網、刺網、一本釣り、底建網などによるサワラ、イカ、マグロ、サケ、ヒラメ漁などが盛んです。マグロは1シーズン千本獲れたこともあり、龍神様の上に万本碑と呼ばれる鮪大漁の記念碑「八竜神」が建立されています。

イカ漁は通常、夜に行われていましたが、村内で初めて昼間操業に着手したのが尻労地区の漁民です。



船から上げるサワラ

平成11年、漁港と集落をつなぐ「みらい大橋」が完成。それまで急な坂道を通らなければ行き来できなかったため、漁業者はもちろん、地域の人たちの暮らしは、随分便利になりました。

集落の共有財産は土地共有会が管理し、そこから預かった後援会が、熊野様と金刀比羅様の例大祭で祈禱を行っています。

八幡宮の例大祭(9月14日・15日)では、みのり会が「山車」を運行し、地区内を練り歩きます。

国の重要無形民俗文化財である能舞は後援会が、県の無形民俗文化財である餅つき踊りは婦人会が伝承。青年団は毎年2月、演芸会を開いています。こうして各団体が連携し、地域を盛り上げているのです。

漁師まちなのに、気性が穏やかで、みんなで協力し合う集落の人たち。地区内には、八幡宮、熊野様、金刀比羅様、龍神様、弁天様など22もの神様があり、地区民は静かに手を合わせ、家内安全と大漁を祈っています。



八幡宮



八竜神の碑



何万年もの波の浸食で出来た洞窟

昭和51年、青年団や後援会に入会していない人が集まり、地域が実るよう「みのり会」を結成しました。地区で最も大きな祭りである八幡宮の例大祭を盛り上げようと、栗の木で釘を1本も使わず山車を造りました。9月15日は山車を船に寄せ、漁業研究会の主導で、30隻の船を連ねて海上パレードを行い、金刀比羅様と龍神様の見える海を回ってから地区内を練り歩きます。



みのり会 会長
かわばた まもる
川端 守さん(66歳、右)
会員
よしだ かずお
吉田一雄さん(67歳、左)

土地共有会から預かった熊野様と金刀比羅様の例大祭で祈禱を行い、能舞を伝承しています。会員は18歳から50代まで16人。20代が6人と後継者も育っています。1月17日には漁村センターで鶏舞からはじまり12幕を披露します。尻労の能舞は、師匠様指導のもと、昔から伝わる手を少しも変えず、形を壊さず、昔ながらの舞を残すことに力を注いでいます。これからも受け継ぐことへの責任を感じながら、若い人に伝えていきます。



後援会 会長
はやし 林
孝志さん(52歳)



尻労漁港まで架かる「みらい大橋」



航海安全の神として知られる、香川県(讃岐国)琴平の金刀比羅様。東通村内でも、古くから讃岐国の金刀比羅様へお参りしていたようで、無事に帰ってきた村人が

石碑を建てたり、分霊した金刀比羅様を奉っています。尻労の長石倉山にも金刀比羅堂が建ち、航海と海上安全の神として信仰されてきました。長石倉山を香川県の象頭山に見立てて建立したようです。

新しい船を購入した船主は、その船を沖まで走らせ、海上から金刀比羅様と龍神様を拜むそうです。

毎年6月10日に行われる金刀比羅様の大祭では、後援会の会員が紋付羽織袴姿で熊野権現を抱き、険しい山を登って祈禱します。また、漁に出たとき、金刀比羅様が見えなくなるほど高い波になると漁港へ帰らなければならないと言われている。



金刀比羅神社



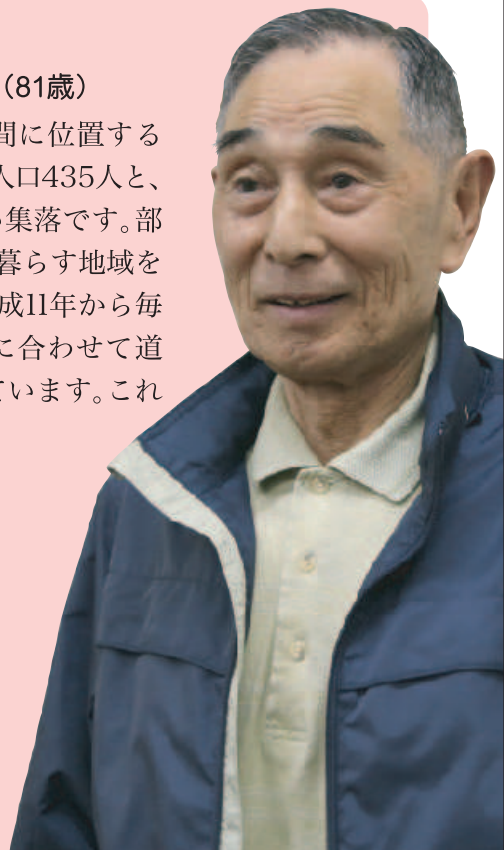
金刀比羅神社例大祭で祈禱する後援会

尻労部落会 会長

おがさわら ごうたろう

小笠原 剛太郎さん(81歳)

尻屋と猿ヶ森の中間に位置する尻労は、世帯数142戸、人口435人と、村内で4番目に大きい集落です。部落会では、自分たちの暮らす地域をきれいにしようと、平成11年から毎月1回、漁業の休養日に合わせて道路の一斉清掃を行っています。これは「尻労」だけの取り組みです。年々人口が減少し、若い人は仕事を求めてどんどん外へ働きに行ってしまう。発電所が早期に稼働して、若者がふるさとへ戻り、地域が活気づくことを願っています。



神社は地域の氏神様です。地域の人たちみんなを守ってもらったため、お祭り、お正月のほか、老婆会が毎月17日にお参りしています。神社や境内の維持管理としては、桜やイチヨウの木の手入れや、雪の片付けも行います。地域の人みんなに愛される神社であるよう、これからも氏子の仕事をしっかりと続けていきたいと思っています。



土地共有会 顧問

じゃあなしんいち
蛇穴 進一さん(88歳)

また、山に広葉樹を植えて、葉っぱが腐葉土となって海へ流れ、豊かな海になるよう森を整備しています。森と海は恋人同士なのです。

漁業が厳しさを増し、組合員は現在100人弱となりましたが、みんなで海洋資源を回復させるため、漁協では様々な取り組みを行っています。海に魚礁を入れ、太陽光の届く所で海草を増やし、産卵した魚の成長を促すこともひとつ。



尻労漁業協同組合長

かわばた しょうじ
川端 昭治さん(77歳)

東通村の頑張るグループを紹介

明日への かけはし

東通村郷土芸能保存連合会

結成50年。世代を超えて
東通の民俗芸能を継承します！

国の重要無形民俗文化財に指定されている「能舞」など、数々の民俗芸能を、昔のままの形で伝承している東通村。その中心となっているのが、郷土芸能保存連合会です。

昭和39年、村に伝わる「能舞」や「神楽」「獅子舞」「田植え餅つき踊り」を永遠に保存し、担い手を育成しようと、各地区21団体から代表が集まって結成されました。

最大の事業は、毎年1月に村の体育



東通村郷土芸能保存連合会発表会であいさつする越善会長



教育長室に飾られている、国の重要無形文化財に指定された「能舞」、県の無形民俗文化財に指定された「田植え餅つき踊り」など指定書の数々



地域伝統芸能活用センターの名誉総裁である、高円宮妃殿下のご来臨のもと開催された、地域伝統芸能全国大会「日本の祭りin成田2014」受賞記念祝賀会

館で開催している、東通村郷土芸能保存連合会発表会。村内各地区で郷土芸能を伝承している15もの団体が参加し、自慢の演目を披露します。

また、出演依頼に応じて、全国で伝統芸能を上演。これまで国立劇場をはじめ、昨年は千葉、新潟、秋田などへ出向きました。

平成23年には、その活動が認められ、「下北の能舞」として第64回東奥賞を受賞。昨年は地域伝統芸能活用センターが主催する「日本の祭りin成田2014」に出演し、全国で唯一「地域伝

統芸能大賞保存継承賞」が贈られました。

会長の越善和彦さんは「これまでの活動が認められ、身が引き締まるとともに、感謝の気持ちでいっ

ぱいです」と話します。

事務局の吉田悟さんは、「今年は結成50年の節目を迎えます。約600年以上続く伝統ある芸能を絶やさずに来たのは、21団体をまとめている連合会の存在が大きいのと思います。能舞などは神事であり、地域にとってなくてはならないもの。無心で演じる心地良さは何とも言えません。そして伝承のための世代を超えた交流は、地域づくりにも繋がっていると思います」と誇らしげに語ります。

越善会長は「これからも伝統を絶やすことなく、受け継いでいきます」と誓っていました。



「日本の祭りin成田2014」に出演



東通小学校 野球部

やる気あって、みんな仲良しで、誰もがしっかり返事をする、東通小学校野球部の子どもたち。父母の会の力強いサポートのもと、元気に練習に励んでいます。

部員は、6年生11人、5年生10人、新入部員の4年生11人。監督は石川博昭先生です。練習は、週に3回～4回、午後3時半から約2時間。部員のお父さんと地域の方々3人がコーチとして子どもたちを指導しています。練習は、基礎トレーニングとして、瞬発力を高めるためにダッシュを10本。

右を向いたり、後ろを向いたり、地面に寝てから起き上がる、ユニークな方法を取り入れています。このほか、ランニング、キャッチボール、ノック、バッティング、ピッチングと、みんな野球が大好きで、楽しみながら練習に励んでいます。委員会や学級の係の仕事があるため、全員そろって練習をスタートできない日もありますが、



基礎練習の走り込み



東田伯君のバッティング

こんにちは 元気さん

元気さん

東通米生産販売振興会 会長 **山崎 孝悦さん(54歳)**

ヤマセの厳しい東通村で、冷害に負けないおいしい米作りに励む、山崎孝悦さんにインタビューしました。



自らの顔が描かれた「ほっかりん」の米袋を手にする山崎さん

冷涼な気候を逆手に取り、農業を減らすことで良質な米作りを行う東通米生産販売振興会。その会長として今、ヤマセに強く、冷めてもおいしい「ほっかりん」普及に力を注いでいるのが、山崎孝悦さんです。

農家の長男として生まれた山崎さんは、農業を基礎から学ぶために五所川原農林高等学校へ。卒業後は千葉県での畑作研修を経て、家業を継ぎました。

米作りが厳しさを増す中、転機は訪れます。「県内のコメ作りのプロたちと交流を重ねるうちに、気象条件のよくない下北でも、頑張ればおいしい米を作って売ることができることに気づき、平成15年に東通米生産販売振興会を立ち上げました」。おいしい米作りのために技術を向上させるのはもちろん、これまで玄米で販売していた米を精米し白米で販売。会員みんなの所得をアップさせるという村内初の試みに挑戦しました。

平成17年には、寒冷地稲作の基本技術を実践し、高品質な米を安定生産。振興会の会長として地産米の販売などを積極的に行う活動が認められ、青森県の稲作発展の功労者に贈られる「田中稔賞」を史上最年少の44歳で受賞しました。「正直、嬉しかったです。気象条件が不利な下北で、おいしい米を作るのは大変なこと。そんな中で認められたのだから、もっともって頑張ろうと思いました」と明かします。

現在、取り組んでいるのは「ほっかりん」の普及。この米は県が開発し、平成25年3月に登録された寒さに強くて味も良い下北待望の新品種です。山崎さんは「今まで作ってきた『まっしぐら』と栽培方法は変わらないのに、味がいいのが魅力でした。下北の米を守る会と一緒に『ほっかりん』の作付面積を増やそうと活動しています」と話します。現在、下北で栽培されている50町歩のうち、6町歩を山崎さんが作っています。

ほかにも東通村の地酒「祈水」の酒米「駒の舞」を作付したり、自ら塾長を

つとめる「東通★東風塾」では、東通小学校の5年生に田植えや稲刈りなどを体験させています。

「振り返れば、生産者が米のセールスをするんだから、大変ですよ。でも農家はただ売れるのを待つのではなく、攻めの農業をしなければ生き残れない。東風塾などで出逢った信頼できる仲間、自分にとってエネルギーの源。大切な存在です」と山崎さん。

秋、コンバインで稲刈りする時「脱穀した米がタンクにシャンシャンと音を立てて溜まっていく心地良さがたまらない」と話します。

将来は「自分のあとを継いでくれる人を育て、作付面積を20町歩まで増やしたい」と笑顔で語ってくれました。



丹精込めて「ほっかりん」の苗を育てます

短い時間で効率の良い練習を心がけているそうです。

数年前まで、県大会に出場したこともあるそうです。昨年は下北地区大会でベスト8の成績でした。「今年こそ、県大会に出場したいという部員たちの願いを実現するため、休日も練習し、大会に向けて力をつけています」と石川先生。

キャプテンで、ショートを守り、控えのピッチャーとしても活躍する6年生の伊勢田蓮太君は「試合でヒットを打った時が一番気持ちいいです。今年はみんなの夢である県大会に行けるよう頑張ります」と決意を話してくれました。

エース四ツ谷来輝君のピッチング

石川先生は「東通小の野球部は



野球部(5、6年生)のみなさん

守りが良く、打たせて取るチームです。1人1人の能力を十分生かし、チームとしてまとまりある野球で、夢を実現できるよう励ましていきたい」と話していました。

キャプテンの
いせだ 蓮太くん
(6年)





東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

●写真は特派員が自ら撮影したものです。



私の大好きな小田野沢!

東通村小田野沢在住
東通小学校(6年)
かわくち
川口 くれあさん
(11歳)

私の住んでいる小田野沢地区は、防衛省の施設があり、その中に日本最大級の砂丘があります。他にも小田野沢では季節によってちがう魚がたくさんとれます。私のおじいちゃんも船を持っていて、いつもたくさんの魚をとってきてくれます。魚はとっても新鮮でおいしいので大好きです。そして、毎年海の日には、五穀豊穡を



猿ヶ森砂丘



小田野沢漁港

願う大漁祈願祭が行われます。ヒラメのつかみどりなどがあり、他の地区からもたくさんの人が集まり、とてもにぎわいます。いつもよりも、にぎやかな雰囲気の小田野沢は、一味ちがってとても好きです。

私はこの美しい海や自然をいつまでも守り続けていきたいと思っています。



鍵懸神社



左京沼



みなさんクイズです!

東通村鹿橋在住
みやかわ ゆきみ
宮川 祐希美さん
(24歳)

まず「鹿橋」という地名について皆さんはどのように読みますか?

恐らく「しかはし」と読む方が半数以上だと思います。

これは鹿橋の人(鹿橋出身者を含む)からしてみると訂正したくてもなかなかもどかしい一件であり、そこをできることなら正しく呼んでももらいたい!と悩ませる「鹿橋あるある」です。正しい読み方で呼んでくださっている方は、どれくらいいるのでしょうか。

そんな我がふるさと「鹿橋」ですが、正直なところ、何か特別な観光名所があるわけでもなく、大々的にPRできるような特産物也没有ありません。とはいえ、東通村全体を見てもそうですが、鹿橋にも歴史があります。「能舞・手踊り」、何百年と絶えず続く「しきたり」、さまざまな言い伝えのある「千年桂」の木、行事の中心でもある「池野神社」など、歴史と共に築きあげてきた風景があら

達人がつくる簡単料理!

東通村野牛産「大型外海地まきホタテ」のオイル煮

〈材 料〉

地まきホタテ(殻付き)3枚、アスパラ1本、ネギ1/2本、干し貝柱3個、白ワイン180cc、オリーブオイル100cc

〈作り方〉

- ①前の晩に、半分にほぐした干し貝柱を白ワイン180ccに漬け、冷蔵庫に入れて戻しておきます。
- ②調理する直前に、地まきホタテを殻からはずします。(はずした時に出る、汁もとっておきます。)
- ③アスパラは皮をむき、ネギは3センチ幅にカットし、下ゆでしておきます。
- ④フライパンにオリーブオイル適量をしき、地まきホタテの身を片面だけ焼き、別皿にとっておきます。(片面に焼き色をつけるだけで、生の状態で仕上げます。)
- ⑤そのままのフライパンで、下ゆでしたアスパラ、ネギを炒めて別皿にとっておきます。
- ⑥そのままのフライパンで、前の晩に戻しておいた①を、白ワインが半分になるまで弱火でゆっくりと煮詰めます。
- ⑦煮詰まったら、炒めたアスパラ、ネギ、とっておいたホタテの汁を入れて、弱火でゆっくりと煮ます。
- ⑧野菜が柔らかくなったら、残りのオリーブオイル全量と、とっておいたホタテの身を入れて、弱火でゆっくりと煮ます。
- ⑨ホタテに火が入ったら、お皿に盛りつけて出来上がりです。



達人のワザ

- 地まきホタテの殻をはずす時に出る汁も捨てずに料理に使うと、ホタテの風味がアップします。
- お皿に残ったオリーブオイルは、パンにつけて食べるとおいしいです。



千年柱



池野神社

こちらで見受けられます。私たちにとっては当たり前の生活(伝統芸能・郷土料理・四季折々の自然の姿など)ですが、本当はその当たり前がとても貴重でPRすべき観光資源に繋がるのではないかと今回のレポートを通して感じました。

「ないものはない!見つけてもらおう!」という考え方もある意味一種のPR方法だと思います。そこには鹿橋の人々のこだわりがぎっしり詰まっているのです。

そのためにも、その伝統をきちんと受け継いでいく必要があり、興味を持ってもらうために私たち住民からの発信も大事なことだと考えます。

ところで冒頭の読み方についてですが「しかはし【×】」「ししばし【○】」です! まずはこういう小さなオモシロポイントから!!!

今後ともどうぞ「ししばし」を宜しくお願い致します!!



次世代への想い

東通村老部在住
あいまい まぎゆき
相内 正幸さん
(81歳)

老部は海岸線がきれいで、北には東通原発、南には物見崎が望める場所に位置し、古い時代から清い流れを続けている老部川と、両皇神社の杉や松の大木が自慢です。

部落名の起源は、長禄年代(1458年)頃に南部政経が地名を更改した際に先住民の蝦夷人「オーエンベ族」の名をとったものと云われています。

老部付近には奈良・平安時代から蝦夷人が住んでおり、魚類の産卵の川であった老部川にそ上する、サケやサクラマスは貴重な食材となっていました。

今は内水面漁業協同組合が設立され、サケやサクラマスのフ化事業が盛んに行われています。

両皇神社の由来について



内水面漁業協同組合のフ化場



両皇神社



老部から物見崎を望む

は、勧請が正保4年(1647)で祭神はイザナギノミコト、イザナミノミコトであると云われています。杉や松の大木も約400年を経ており、容易に歴史を想像することが出来ます。また、東北電力白糠出張所(現サービスセンター)の当時(昭和51年)の所長、三浦保氏の配慮により、神社に煌々と電灯がとまり、農作業の一段落した後のサナブリ、神社の祭典などでは大勢の人が集まり遅くまで賑やかに行われていました。

平成18年には古い神社を解体し、新築されて現在に至っております。

17世紀後半に5、6戸の家があり、これが部落の始まりと云われて以来、今は447戸を数える様になりました。全国的に少子化が進み、子供も少なくなり、古くから伝わる郷土の伝統文化の継承を心配しています。これからも絶えることなく受け継がれるよう、念じております。

東通牛リブローズのステーキ ポムフリット

〈材 料〉

東通牛リブローズ300g、メイクイン300g、にんにく2個(皮つき)、タイム2枝(タイム以外でもローズマリーやベイリーフ等、手に入る香草類で代用できます。)、オリーブオイル適量

〈作り方〉

【ポムフリットをつくります】

- ①よく洗ったメイクインの水気をよく拭き取り、1〜2センチ角の棒状になるようにカットします。
- ②揚げ油に、カットしたメイクイン、つぶした皮つきのにんにく、タイムを入れ140度くらいの油で、一度ゆっくりと火が通るまで下揚げして別皿にとっておきます。
- ③食べる直前に、180度の油で二度揚げして、塩をして皿に盛りつけます。

【ステーキを焼きます】

- ①焼き上げる15分前に、東通牛の両面に塩、胡椒をしてなじませておきます。
- ②フライパンに、オリーブオイルをしき、両面を好みの焼き加減に仕上げます。
- ③温めたお皿に盛りつけて出来上がりです。



達人のワザ

- ポムフリットは、低温の油で一度上げ、高温の油で2度揚げするとカリッと仕上がりがおいしく召し上がれます。
- お肉は、焼く30〜40分前には冷蔵庫から出し、常温に戻してから焼くとおいしさがアップします。

今回の達人



アグレアーブル

たけがわかつり
オーナーシェフ 竹川 克範さん(45歳)

●プロフィール

むつ市新町生まれ。イタリア料理の修行を経て、有名フレンチレストラン「ミクニ」丸の内店副料理長、銀座「アスカフェ・ミクニ」の料理長を経て帰郷。2008年アグレアーブルを開店。時間があれば、自ら畑で野菜を作り、フドウの生産も手伝う。「地元の食材を作る人と、味わう人を繋げる料理を作りたい」と話している。

発電所インフォメーション

東通中学校の生徒を対象とした次世代層支援



未来を担う子どもたちが、個性や才能をのびのびと発揮できる環境づくりを応援しています。

平成26年度は、東通中学校の生徒を対象に、「出前放射線教室」や「環境エネルギー教室」、「エネルギー施設見学会」、「スクールコンサート＆吹奏楽クリニック」を開催しました。

国道338号沿道清掃の実施



東通原子力発電所と協賛会社で組織する東通原子力発電所安全衛生推進協議会は、平成26年6月3日、発電所周辺の国道338号の沿道清掃(約4km)を実施し、可燃ゴミや空き缶など、約140kgのゴミを回収しました。

同協議会では、今後も沿道清掃を通じて、地域の環境美化活動に取り組んでいきます。

震災時の女川原子力発電所慰問への御礼



東日本大震災時、東通村のボランティアの皆さんが地域住民の避難所にもなった当社女川原子力発電所を慰問に訪れ、東通そばをふるまい被災者を励ましていただきました。

平成27年4月23日、当時の女川原子力発電所長で、元東通原子力発電所長の渡部孝男が、慰問時の写真を『そば処 田や』に進呈し、あらためて感謝の意を表しました。

環境・エネルギー関連副教材の寄贈



毎年、東通村の子どもたちに、電気・エネルギー・地球環境などへの理解を深めてもらうため、東通小・中学校へ図書やDVD、実験器具等の副教材を寄贈しています。

平成26年度も10月と3月の2回、寄贈しました。

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に
末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。



この冊子は、環境にやさしい「植物性大豆油インキ」
「植林木」を使用しています。

編集後記

東通原子力発電所に赴任してもうすぐ1年になりますが、郷土芸能や、季節ごとの美味しい食べ物、美しい景色などにたくさん触れることができました。そのすばらしさをこの広報誌「しおさい」編集で再確認でき、とても嬉しく思います。そして、これからも東通村のいろいろな素敵なことに出会えるのを楽しみにしています。

引き続き、地域の皆さまに愛読される広報誌を目指してまいりますので、ご支援をお願いいたします。